

5月26日(火)6:00AM

豚由来新型インフルエンザは報告数よりはるかに蔓延している！

<http://bloomberg.com/apps/news?pid=20601124&sid=agHVPFaC5R.M&refer=home>
Bloomberg

CDCは、「USでは、20人に1人しか患者を検知できていない」と報告。このことは、現在USでは10万人の患者がいることを意味する。

UKの新聞[Independent on Sunday]では、「health authoritiesにより検知した300倍はいるだろう：Sun 24 May 2009」という記事が掲載された。

分析

日本のデータと数理モデルの結果を比較し、新型インフルエンザ確定例の数倍はいると予想していたが、海外情報ではもっといる可能性がある。現在国内で350人が報告されているとすると、実際には7000人が既に罹患していると推定される。

逆にそうであれば、致死率は季節性インフルエンザよりはるかに低いことになる。分母をきちんと推定することは、今後の戦略に大きな影響をもたらす。感染研などの国の機関には、関西地区（できれば他の地区も）の格年代層の人々をランダムに選択し、新型インフルエンザに対する血清抗体価を測定して欲しい。過去の保存血清を対照群とすれば、不顕性感染の割合を推定できるはず。また、過去の血清より年代層による交差免疫性の存在も明らかになる。もしも現在報告されている350例が氷山の一角であれば、ほとんどは自分でも気付かない程度の極めて軽症ということになり、ウイルスが変異して強毒化しない限り蔓延地域であっても初期地域であっても季節性インフルエンザと同じ対応で十分ということになる。

南半球で流行の兆しあり

オーストラリア、chief medical officer の Jim Bishop がラジオ放送で話した内容によると、「地域で感染が増加しだした。これから国中に拡大するだろう」

分析

今後北半球で終息傾向を見、夏に向け流行の中心が南半球にシフトしたとすれば、新型は季節性インフルエンザより気候の影響は受けにくいとはいえ、やはり多少なりとも気候に影響される。そう考えると日本国内のインフルエンザはやがて終息（ゼロになることは無いであろう）を迎えるであろうが、冬というよりは秋に再来・再燃すると想定し、準備を

すすめるべき。

既にフェーズ6

実質的には明らかにフェーズ6になっている。フェーズ6になれば、製薬会社にはワクチンを季節性から新型インフルエンザに切り替える必要がある。この点で躊躇しているのであろう。毒性も加味した新しいフェーズの基準が近く WHO より示されるものと思われる。